

ライフスタイルと住まいづくりからみたホームレスハウスの特性

CHARACTERISTICS OF HOMELESS HUTS THROUGHOUT JAPAN FROM THE VIEW OF THE LIFESTYLE AND HOUSING STRATEGY

建築計画分野 野田 裕介
Architectural Planning Yusuke NODA

近年エネルギー消費を低減し、省力化が図られることが求められている。そこで本研究は、自立的で、コンパクトな住まいと暮らしを展開するホームレスに着眼し、ホームレスハウスのつくられ方（敷地・配置・形態）の特質と住まい方や人間関係の独自性を明らかにすることで、一般住宅と相対化することを目的とする。ホームレスハウスには現代の住まいにはない、「弱い計画性の統合」による、効率的で豊かな住まいと暮らしがみられた。

In recent years, it is required to reduce energy consumption and promote energy saving. Therefore, in this research, we focus on homeless who live in a compact residence and send a minimum lifestyle. We clarify the characteristics of homeless huts creation method (site, arrangement, form), how to live and the uniqueness of human relations. It aims to make it relative to general homes. In the homeless house there was an efficient and amenity living composed by subdivided planning not in modern homes.

1 はじめに

1.1 背景・目的

環境共生型住宅に代表されるように、エネルギー消費を低減し、省力化が図られることが求められているものの、我々の暮らしにおいて、電力や燃料をはじめとして社会システムやインフラ、カネとモノ等に依存する生活や住まいは、ますます比重を高めている。持続型社会においては単に資源消費の抑制に留まらずに、依存型の生活から脱却し、生活スタイルそのものを自立的でコンパクトなもの、「弱さの統合」へと転換する必要があると考えられる。本研究は、2020年東京オリンピックに向けての排除が行われる中、現存するホームレスハウスの実態を記録し、自立的で、コンパクトな住まいと暮らしを展開するホームレスに着眼し、ホームレスハウスのつくられ方（敷地・配置・形態）の特質と住まい方や人間関係の独自性を明らかにすることで、一般住宅と相対化することを目的とする。

1.2 調査概要

一般的な家と区別するために、本論文では、ブルーシートやダンボール等で作られたホームレスの住処を、ホームレスハウスと表現する。「全国ホームレス調査（ヒアリング）調査都市別」（厚生労働省/2016年）より調査地域を選定し、12都道府県にて立地の記録、写真での記録、作られ方、住まい方、コミュニティー

についてのヒアリング調査、図面採集を行った。2016年の調査内容2)も踏まえ、126件（うちヒアリング：30件 写真での外観の記録：101件）（他、立地分類のみの記録：183件）の事例について分析を行った。表1に各都道府県、各場所における調査件数、表2にヒアリング調査概要一覧を示す。

2 ホームレスハウスのつくられ方

2.1 敷地選定

図1に敷地の分類を示す。敷地を屋外、半屋外、屋内と分類する。屋外に建つホームレスハウスが最も多いが、半屋外に建つものも屋外の3分の1程度の数がみられた。街の中からうまく雨をしのげる場所を探して、住まいづくりを容易にしている。屋内に構造物を構成する例はみられなかった。また、表3に各敷地の用途別の特徴、図2に各敷地用途の件数と屋外、半屋外の割合を示す。河川敷に建つホームレスハウス

表1 事例件数

都道府県	場所	調査件数
沖縄 OK	新港ふ頭中央緑化公園 A	3
	漫遊公園(右岸) B	1
	漫遊公園(左岸) C	3
	新港ふ頭北緑地 D	2
	若狭公園 E	1
鹿児島 KG	天保山シーサイドブリッジ A	1
熊本 KU	下江津橋 A	1
	加勢川橋 B	1
福岡 FO	久留米 筑後川 A	8
	福岡 舞鶴公園 B	3
	福岡 須崎公園 C	1
	福岡 那珂川 D	2
	北九州 紫川 E	1
広島 HS	広島 A	2
兵庫 HG	武庫川 A	12
大阪 OS	大川 桜ノ宮橋 A	4
	淀川 城北ワンドB	1
	名古屋 若宮大通 A	29
愛知 AI	名古屋 名城公園 B	3
	岡崎 矢作橋 C	1
	岡崎 南公園 D	1
	静岡 SZ	浜松 新天竜川橋 A
神奈川県 KN	湘南防風林 A	2(約6)
	横浜 B	1
	多摩川 A	(約150)
東京 TY	代々木公園 B	6(約15)
	池袋 C	7
	首都高高架下 D	12
	隅田川 E	4
	宮下公園 F	1
	上野公園 G	1
	埼玉 ST	大宮 宮原公園 A
宮城 MG	荒川 B	3(数件)
	仙台 青葉山公園 A	4
北海道 HK	札幌駅 A	1

単位(件) カッコ内の数字は立地分類のみ

が多くみられ、公園、歩道と続く。図3に各都道府県別の敷地用途の割合、図4に敷地用途別の各都道府県別の割合を示す。これらから、表4に示すように、各敷地はさまざまな要因が重なり合って決められている。【OKA】の配置を図5に示す。配置1つで様々なニーズを満たし、生活を少しでも軽くしている様子がみられた。表2からみられるように、管理などの外的要因に対応しながら、様々なニーズを満たせるような敷地が決定される。

2.2 材料

表5に材料一覧を示す。材料は、性能、コスト、入手しやすさのバランスで決められている。防水性能に優れ、安価で、ホームセンターなどで売っているブルーシートはほとんどのホームレスハウスで使われている。また、構造的にも優れ、加工もしやすく、現場などから廃材を無料で譲ってもらえる木材は、使われているホームレスハウスが多くみられた。木材を使うにあたっての課題は運搬方法である。【FOA1】ではホームセンターで購入した木材をお金を払って橋まで運んでもらっている[1]。【KNA1】では仕事で使っているトラックで廃材をそのまま運んできている[2]。これらのように調達方法を確立させることで、木材をホームレスハウスに利用している。たまたみやすく、簡単に丈夫な住まいが作られるドームテントが使われている事例も多くみられた。【AIB1】では、管理から言われるので夜間のみドームテントを建て、昼間はたたんでいる[4]。部材選定においては各事例における工夫もみられる。【FOB1】では荷物が積み上げられ、天井に傘

の骨組みを用いることで形作られている。また入り口には自転車によって開口が作られている。身近にあるもので頑丈なものを重要な構造部分に使っている。【AIA6】では建築に携わっていた経験を生かし、譲ってもらった廃建具を組み合わせて住まいが作られている。性能、コスト、入手しやすさのバランスが、それぞれのニーズや背景に合わせて決まっている。

2.3 構法

形状

形状の分類を図6に定義する。形状は技術、自然環境への対応、周辺環境の影響によって決まっている。屋外で暮らすホームレスが多いゆえに、屋根勾配が取れる形で、かつ単純である片流れ型が多くみられた。さらに、片流れ屋根より単純な形で、大きな空間がとれる陸屋根型も多くみられた。次に多いのがドーム型

敷地	屋外	半屋外	屋内
ダイアグラム			
特徴	土地はありふれているが、雨や日光への対策が必要	雨や日光などへの対策が容易であるが、高架下や橋の下などに限られている	ホームレスハウスを形成しているものはほとんどみられない
事例件数	237件	70件	1件

図1 敷地分類

表3 敷地用途一覧

敷地用途	特徴	件数
河川敷	広い土地があり、公共性が高い。橋の下も利用される。水害対策が必要。	205
公園	橋の下で一番目に付く空白空間である。公衆トイレも完備されている。	69
歩道	広くなっている場所や柱で隠れている場所などに多い。人通りに配慮した配置が必要。	26
砂防林	湘南海岸沿いにみられる。大通りから視線は通らず、風からしげめて、木が多い場所。	3
ビル	屋根が確保できるもの、日中の使われる時間帯は移動する必要がある。	3
公共施設	公園とは管理者の意向に左右される。融通は利かせやすい。	1
バスターミナル	夜間の使われないうちに寝泊りする。	1

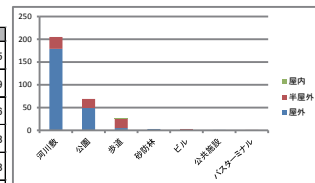


図2 各敷地用途件数

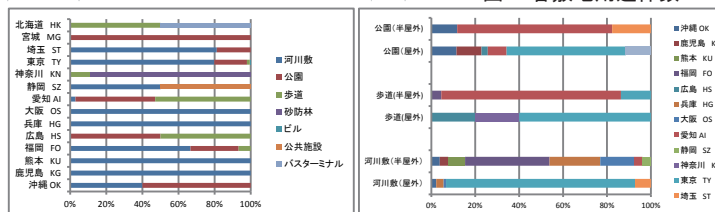


図3 各都道府県別敷地用途割合

表4 都道府県別にみた敷地用途の特徴

立地	特徴
河川敷	全国的に多くみられる。半屋外に建てられているものは全国的にみられる一方で、屋外に立てられているものは、東京をはじめとした都市圏のみである。これは、都市圏では橋の下に収まりきらず、橋の下以外でも建てられているものとみられる。
高架下	公園と歩道における半屋外の割合を見ると、愛知県に多くみられる。これは、若宮大通の高架下にホームレスハウス集落が形成されているからである。愛知万博のときに公園からここへ誘導されたことがきっかけである。
公園	宮城県では公園の割合が100%を占める。これはホームレスハウス集落が仙台市の青葉山公園でしか残っていないからである。一方で公園でテントを張ると怒られるといった地域も多く、福岡県の久留米では公園から河川敷に移動してきている。

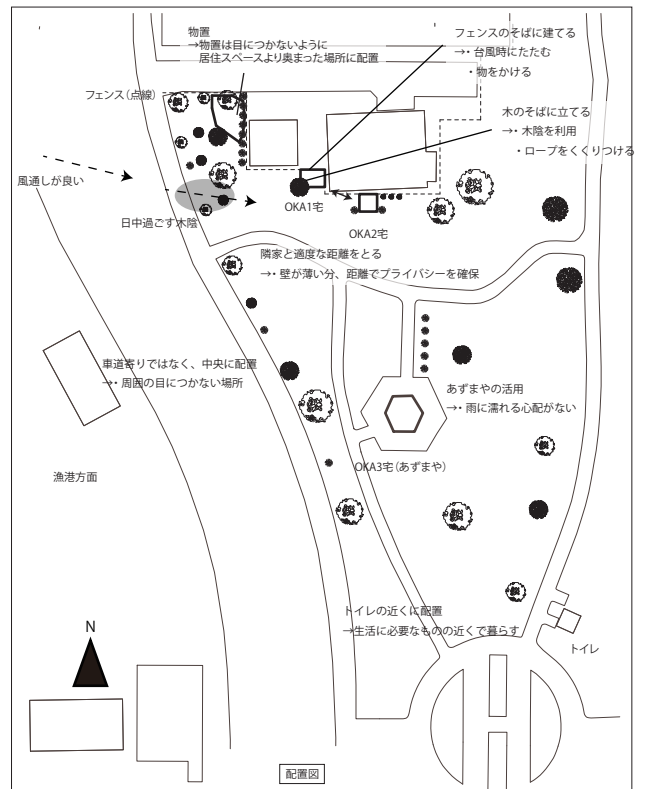


図5 OKA 配置図

表5 材料一覧

材料	特徴	件数
ロープ	固定、引っ張る、物を掛けるといった様々な用途に利用されるため、必要不可欠である。ロープの種類は事例によって違う。	114
ブルーシート	防水性に優れ、安価で手に入れられるため、ほとんどのホームレスハウスで用いられる。屋根、壁そのもの、あるいは防水用の外装として使われている。入手方法として買ってきたものや、他人から譲られたもの、あるいは、住や寝、食材、寝具など幅広い用途で使われる。テントなどの場合もあるが、使わない事例も多い。入手方法はホームセンターで買う、現場の廃材もあってくる。	67
木材	建てやすい為、使われている事例が多かった。ブルーシートを外装材として併用している事例がほとんどであった。使用理由として、折り畳みができると、撤去移動がしやすくなった例がみられた。購入されたものが残ったが、配管などの用途もある。しなやかなので、骨組みの代わりになる事例もある。	27
既製品テント	建てやすい為、使われている事例が多かった。ブルーシートを外装材として併用している事例がほとんどであった。使用理由として、折り畳みができると、撤去移動がしやすくなった例がみられた。購入されたものが残ったが、配管などの用途もある。しなやかなので、骨組みの代わりになる事例もある。	15
ダンボール	壁に使われる。スチーマーなどで無料でもらえるものが、濡れると使えなくなるので、雨に濡れない場所や内装に使われる。もしくは移動式などで、簡易的な目隠し、風除けになる。	7
傘(パラソル)	雨をさす、骨組みも組み合わせるので、屋根や庇として使われている事例がみられた。柄を固定具として使っている事例もみられた。	6
足踏パイプ	工事現場に使われるもので、かなり頑丈である。リサイクルショップで中古のものを買ってくる。主に東日本でみられる。	7
骨物	骨物を積み重ねることで形を形成している。	5
すだれ	目隠ししつつ、夏場に風を取り入れられる。	5
音響	移動式の基本的な形となる。	4
コンクリートブロック	基礎に使われる。重量がある。	4
竹	軽さが必要な部分や、しなやかな部分に使われる。	3
すのこ	もともと木材が等間隔で並べられて、板状になっているので、風を通しの良い目隠しとして使われる。隙間にもものを引っ掛けられるといったメリットもある。	2
資機	強度もあり、屋根に使うと水の流れができる。	3
既製品タープ	工事現場などで、天井も取れる。壁がないためブルーシートなどで作作する必要がある。	3
自転車	構造材として使われている例がみられた。また、移動式において大きな荷物が運べるよう改造されていた。	2
白色ビニールシート(建築用養生シート)	ブルーシートの色違いである。日光を屋内へ取り入れることができる。	2
ブリキの箱	もって来たものを積み重ねて、周囲にブルーシートを被せている。重ねたものに梁をかけて天井高を出している。	2
廃建具	解体現場からもってくる。そのままの用途で使ったり、リノベーションに組み合わせて使ったりする。	2
畳マット	床の上で使われる。コンパネの上に乗せる。	3
人芝	外観と内装が美しい。軒下や高架下の作業スペースに敷かれている。	2
射命	非常に丈夫なもので、前に倒れかけて使う。	1
設置品ビニールハウス	簡単に大空間を作ることができる。	1
発泡スチロール	天井に使われている事例があった。	1
フランド	内装や、屋根材として使われる。水にも強い。	1
スポンジマット	脚間に設置するため、クッション性と衝撃の吸収を量らす。	1
ぬいぐるみ	自分の居場所を表現している。	1
草	柱などとして使え、強度も担保できるが、加工が得意でない。	2
穴あきアングル	壁などに使われる穴の開いた骨材。穴に物を引っ掛けられる。	1

やタープ型などである。これらは既製品のテントなどを利用して、技術的には容易であるが、居住空間は狭い。一方で、技術の必要な切妻型は比較的少数である。既存の構築物を利用する依存型が多くみられたことから、技術は形に影響しているといえる。

形状	独立型: 建物を独自でもつもの								依存型	建物なし	
	片流れ型	陸屋根型	ドーム型	タープ型	切妻型	自在型	かまぼこ型	方形			
ダイアグラム											
特徴	勾配屋根では単純な形で、多く用いられる	作り方が容易で、多く用いられる	既製品のドームシートによるもの	柱などで支えられた布を屋根から引張る	内部空間は広いが、技術が必要	荷物などを積み重ね、シートを張った形	しなでいて、既製品タープによるものに強い	既製品タープによるもの	建物を作らず既存の構築物を活用	建物はない	
件数	24件	22件	11件	10件	78件	8件	4件	3件	1件	31件	8件

図6 形状分類一覧

構造

構造の分類を図7に定義する。構造は技術とニーズのバランスで決まる。直感的に細い部材でも大空間がとれる柱梁構造が多くみられた。一方で既製品のものであったり、周囲のものを利用して構造を持たせたりするドームテントや引張構造が多くみられた。公園の管理などで、容易にたたんで組み立てることが求められるといったことも一因となっている。また、構造を一切既存の構築物にゆだねる依存型も多くみられた。【KUA1】では熊本地震のときに橋に免震装置がついていたため大きな被害がなかった[3]。図8に各形状の数とそれらの構造の割合を示す。片流れ型、陸屋根型、切妻型ではほぼ柱梁構造で作られているなど、その形に合った作られ方がなされている。一方で、壁式など独自の方法がみられる。

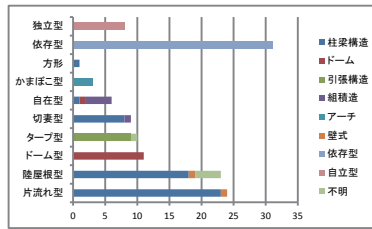


図8 形状別構造割合

構造	自立型: 建物を自立させているもの							依存型	建物なし
	柱梁構造	ドーム	引張構造	縦構造	アーチ	壁式			
ダイアグラム									
特徴	大空間を作ることが容易であるが、強度を保つためには技術が必要	既製品のテントや傘を用いて構造体としている	簡易的な柱を立て、周囲からロープなどで引っ張る。施工も簡単	荷物などを積んで構造体を構成する	円柱に竹などをしならせて並べて構成する。強く、空間も広いが技術が必要	廃材などを壁状につなぎ合わせることで構成	構築物は既存のものに頼る	構築物がない	
件数	47件	15件	10件	74件	5件	3件	2件	31件	8件

図7 構造分類一覧

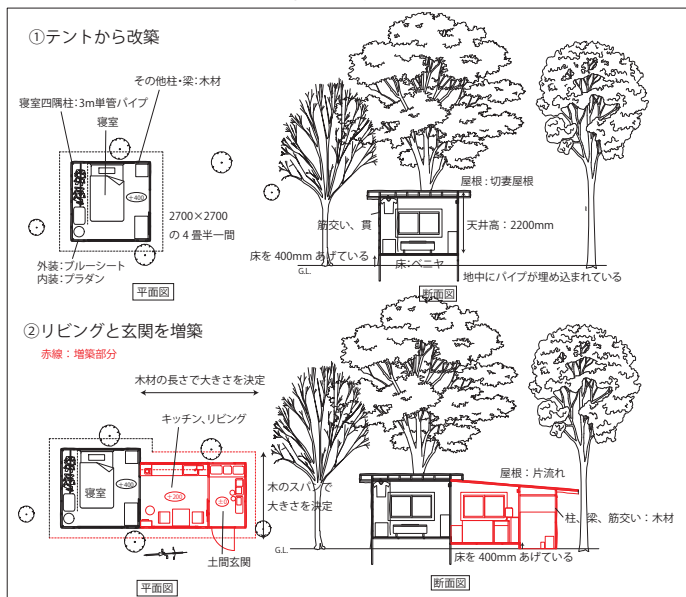


図9 KNA1 作り変え

技術

表2にそれぞれの技術習得と気候への対応、撤去への対応の技術を示す。建築の経験があったことや、技術の継承があった、住まいづくりを行う中での習得もみられた。

2.4 空間構成

限られた空間で暮らすゆえに、1つの空間に複数の機能を持たせたり、外部空間を有効活用したりする例がみられた。

2.5 住み替え作り変え

表2より、ホームレスハウスにおいては、自分のニーズに合わせて、また外的要因によって住み替え作り変えが行われている。【KNA1】は、自分のニーズの変化によって作り変えを行うと共に、試行錯誤によって形状や使用部材の変化が起きている(図9)。【FOA1】では、人間関係も住み替えを行うきっかけとなり、その中で技術の向上と共に思い通りの住まいを作り上げている(図10)。

3 ホームレスハウスにおける生活

3.1 生活の特徴

3.1.1 収入

炊き出し等の他に現金収入を得ている例がほとんどである。缶集めや廃品回収を生業としている例が多い。また、仙台では缶集めを行う文化がなく、仕事をしていない人は収入源がない。住所を持つことで、仕事に就いたり、年金をもらったりしている例も多くみられた。【KNA1】は近くの教会づたいで住所を借りており、それによってマイナンバーを申請して仕事についている。住所がある拠点があることは、国の制度を利用したり、携帯などの契約関係を持ったりする上で重要である。アーティスト活動によって収入を得ている例がみられた。【TYB1】では自宅の歩道に面した場所で絵を描いており、フリーマーケットなどで売っている。仕事が住まいづくりに関係している。

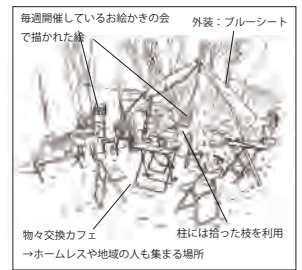


図11 TYB2 イメージ

	2015年				2016年				2017年			
	6月	8月	10月	12月	2月	4月	6月	8月	10月	12月	2月	4月
二千年大橋	FOA4											
	FOA3											
小森野橋	FOA1											
豆津橋												

①FOA4は建物があったものの、FOA1が来たときから姿を見たことはない。
 ②FOA2がFOA1の隣へ引っ越してくる。FOA1はFOA2の家作りを手伝う。
 ③FOA3は一時はなくなっていたが、戻ってきた。戻ってきたところ挨拶にFOA1のところへ来たときに隣に引っ越しをしないかと誘われる。
 ④FOA1はFOA2とお酒のトラブルで仲が悪くなり、天井の広いところへ引っ越したいとも考えていたので、FOA3の住んでいる二千年橋へ引っ越すことを決意。
 ⑤200mほどの距離なので、2ヶ月ほどは小森野橋に住みながら建て、引越す。
 ⑥FOA1がFOA3ともめ、その勢いで出て行けといわれる。FOA3の酒がせが悪く、このようなことが何度もあったので、FOA2やFOA3から離れた場所に引っ越すことを決意。
 ⑦3週間ほど住んだ後、熱中症にかかったことがきっかけで市に相談。現在は施設で暮らしている。
 ⑧FOA1にヒアリング調査に同行してもらったときに、FOA3と再会。一時喧嘩となるも、誤解によって生まれたためめでたことであったため和解。

図10 KNA1 作り変え

3.1.2 生活全般

食事

買って調理するといった例が多くみられた。【FOB1】では火を使うと公園に注意を受けるため、極力火を使わないものを買って食べている。食事にも周囲の環境が影響している。また、炊き出しが頻繁に行われている地域も多い。【HSA1】はアルバイト代がないときはゴミから食べられるものを探している。人々の生活から溢れ出たものを活用して生活している。

水

水は公園やトイレなどの水道で汲んで使っている例がほとんどであった。水は生活必需品であることから、敷地を選ぶときなどでも大きな指標となる。公共の施設を活用している。

入浴

銭湯を使っているといった例が多くみられた。公共の施設が活用されている。また、汲んだ水を浴びるといった例も多くみられた。【OKA1】では、沖縄にはお風呂に浸かるといった文化がなく、銭湯がない。そのためトイレの水を浴びるしか方法がないので、水道の位置は敷地を決める際の重要な指標となる。【KNA1】では公共の無料のシャワーを活用している。湘南海岸沿いには海水浴客やサーファー向けの無料のシャワーが点在している。そのため公共の設備でシャワーが浴びられる。

電気

乾電池を使って懐中電灯を使っている例が多くみられた。【KNA2】では乾電池がゴミとして出される日に乾電池を集めてきて残っているものを利用する。人々の生活でいらなくなったものの寄せ集めで生活している。【KNA1】では近くの教会で電動工具用のバッテリーを充電することで電気を使っている。充電できる場所のような拠点があることは、生活する上で大きな役割を果たす。

3.1.3 余暇活動・趣味

各事例において様々な余暇活動や趣味による自由な暮らしがみられた。【SZB1】においては、植物が好きで、外で暮らすため、大きな庭を持っている感覚で、四季の移り変わりを楽しんでいる。このように外で暮らすのが故の楽しみがある。【TYB2】においては毎週日曜日に物々交換のカフェを開き、毎週火曜日にお絵描きの会を開いて、他のホームレスや地域の人を招いている。それに合わせた住まいづくりがなされており、人が通る場所から見える位置であるため、新たなコミュニティが生まれている（図 11）。【STB2】は釣りが趣味である。夜釣りをしており、家に帰るのが面倒でテントを張るようになった。そこからホームレスに転じた。ホームレスになることで趣味を謳歌している。

3.2 コミュニティー

集住型、集落型、個人型を図 12 のように定義する。集合形態としては、集住型よりも個人型のほうが多くみられた一方で、個人型の中では集落型のほうが多い（図 13）。集落型と単独型を比較しても、かなり集落型のほうが多い。何かしらの形態で集まって住むことで、生活を豊かに、コンパクトにしているとみられる。

3.2.1 集住型ホームレスハウスにおける人間関係

集まって暮らすホームレスハウスがみられた。一緒には暮らすが、財布や食事は別といった例が多くみられた。【AIA14】は親方が家を全て作った。また【AIA19】では【AIA20】に自転車を修理してもらっていた。このように、適度な距離を保ちながら役割分担をすることで、生活をコンパクトにしている。一方で【AIA6】ではたまたま知り合った3人で暮らしており、食事を3人でとる。【KNA2】では親方が誘ってきた3人で暮らしており、稼いだお金を1つの財布にまとめるほどの共同生活が行われている。元々他人であった人物同士が共同生活を行うことで、生活を豊かにしている。

3.2.2 集落型ホームレスハウスにおける人間関係

ホームレスハウス集落が形成されている例がみられた。たまたま誘われたなどきっかけはさまざまである。【AIA】では、愛知万博のときに行政によって若宮大通に集められたため、集落が形成されている。集落で生活するメリットがみられた。【FOA1】では集まって建てられてるがゆえにいたずらされずに残っており、【FOA1】を隣に住むように誘った【FOA3】も集まって住むことで安心を得ている【11】。【TYB2】では炊き出しでもらった食材や手に入れた廃材を分け合って生活する様子が見られた。土地の効率利用だけを考えた現代の集合住宅とは違った、安心を得る、共助を行うといった、豊かな集落での暮らしがみられた。

3.2.3 近隣ホームレスとの人間関係

ホームレスハウスの周囲では、缶拾いなどで顔見知りになることが多い。【KNA1】では教会に出入りしている人と顔見知りではあるが、挨拶程度の関わりである。このように、深くは関わらないといった例が多くみられた。その中で、【FOB1】では、

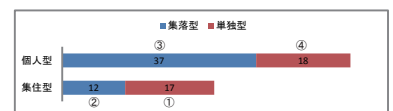


図 13 集住型、集落型割合

集合形態①	集合形態②		凡例	
	集住型	個人型		集落型
ダイアグラム				
特徴	壁など建物の一部、リビングなど空間の一部を他人と共有しているもの	1人で生活しているもの	周囲に他人が住んでいるもの	周囲に人が住んでいないもの
調査件数	11集住 29件	55件	20集落 264件	43件
集合パターン	①建物の一部を共有している 一集住型かつ単独型	②集住かつ、周囲に他人が住んでいる 一集住型かつ集落型	③1人で暮らしているが、周囲に他人が住む 一個人型かつ集落型	④1人で生活している 一個人型かつ単独型

図 12 集合形態分類

地域の人が空き缶を持ってきてくれるが、年金生活をしているため、他のホームレスにあげている。【MGA3】では、様子がおかしい隣人を覗きに行き、救急車を呼んであげたことがある。【AIA19】では現在住んでいる場所に入居する際、隣人に挨拶回りをした。このように共助を行いながら暮らしている例がみられた。

3.2.4 地域との人間関係

地域の人とはあいさつ程度の関わりしかないといった例が多い。一方で、地域の役に立っている例がみられた。【HSA1】ではアルバイトとして、住んでいる公園やその周囲の清掃を行っている。【FOA3】は、増水によって土まみれになってしまった河川敷の遊歩道を人が通れるように掃除した。【SZB1】では暮らしている静岡市民文化会館のためになっている様子が見られた。バスロータリーから生垣の隙間をショートカットして枝を折る人がいるので、生垣を通れなくして守ったり、駐輪場のそばに暮らしていることから、駐輪場に目を光らせて自転車泥棒をさせないようにしたりしている。【MGA1】ではホームレスハウスが建っていることで、薄暗かった場所が、人目があるため安心して散歩できる場所になったという声がきかれた。これらのように、人々の生活から溢れ出たものを吸収するだけでなく、暮らしに還元している例がみられた。

4 ホームレスハウスの特性

図 14, 15, 16 にそれぞれ、各都道府県と形状、敷地用途と形状、敷地用途と構造の割合を示す。表 6, 7, 8 にそれぞれそれらの特徴を記す。これらから読み取れるように、それぞれにおいて場所性などの特性がみられた。生活においても場所性がみられた。収入源に関して、全国的に空き缶拾いで収入を得ている事例が多くみられた。一方で、仙台では空き缶拾いの文化がない。炊き出しなどを活用して生活している。入浴に関して、銭湯に入るといった事例が多くみられた。一方で、沖縄には湯船に浸かる文化がなく、銭湯はない。トイレの水を浴びることで毎日の入浴としているので、トイレの位置が敷地決定の重要な決め手となる。また、湘南海岸にはサーファーや海水客用の公共の無

料のシャワーがある。そこでシャワーを浴びるといった例がみられた。このように、ホームレスハウスの作られ方とその生活においては、身の回りのさまざまな要素が絡み合って構成されており、ある条件によって特性が表れることが明らかになった。

5 結論

ホームレスハウスにおけるコンパクトかつ豊かな暮らしがみられ、加えて以下が明らかになった。

- ①小さな要因が重なり合って、ホームレスハウスの要素を構成している。
 - ②家づくりにとどまらず、生活や余暇活動においても、ニーズや考え方を反映した暮らしが展開されている。
 - ③人々の生活からあふれ出したものを享受するだけでなく、人々の暮らしに還元を行っている。
- これらから、ホームレスハウスでは「弱い計画性の統合」「自ら作り出す豊かさ」「人々の暮らしの余剰部分を吸収し、還元するサイクル」が組み合わさった環境共生型の暮らしがなされているといえる。

参考文献

- 1) 「全国ホームレス調査（ヒアリング）調査都市別」（厚生労働省 / 2016）
- 2) 「ホームレスハウスをとりまくライフスタイルからみた現代における住まいづくりの応用の可能性に関する研究」（野田裕介 / 大阪市立大学卒業論文 / 2016. 3）

表 9 ヒアリング回答

〈材料調達〉
[1] ここで材木買ってあの、あそこまで配達してもらったですね。配達料、こっから二千年橋で360円だったんですね。/FOA1
[2] 物を運ぶときは会社の車でさ、すぐそこまで軽で。2tとかああいうトラックじゃなくて、軽で運べるものにして、すぐそこまで、入ってこれるから、そこまで入ってきて、だーっと降ろして。/KNA1
〈依存型の構造〉
[3] (地震の影響とかはなかった?) 20cm ぐらい下がった (そうなんですか、この辺も結構揺れました?) 揺れたよ。(大丈夫でした? 物が崩れたりとか) なかったね、橋の下に免震装置ついてたからね、2回目の地震で下がったんですけどね、あれはびっくりしたね /KUA1
〈集住〉
[4] 【FOA3】さんが隣におるけんね、それで壊されたりする危険性が少なくなってる。(集まってすまれた方が安心というか、まわりからいたずらされる心配もないですもんね。) 【FOA3】さんもそれは言うてはったです。こはやっぱ3人ぐらいいるのがちょうどいい。って言うてたですね。まわりがいなくても誰か1人ぐらいいは残るかなって言うてはってですね。自分とこは安徳さんいるもんで入り口のシート破かれるぐらいで、荒らされることなくですね。でももう、あれだけ荷物しっかり残ってたんでちょっと安心しました。/FOA1

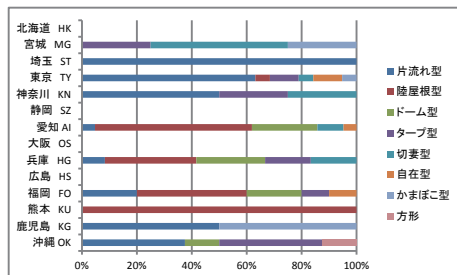


図 14 各都道府県別形状割合

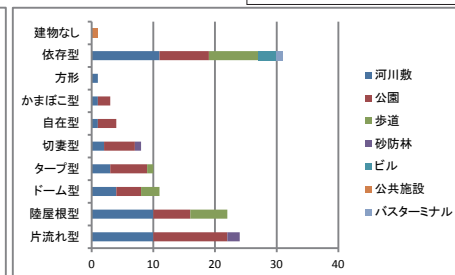


図 15 形状別敷地用途割合

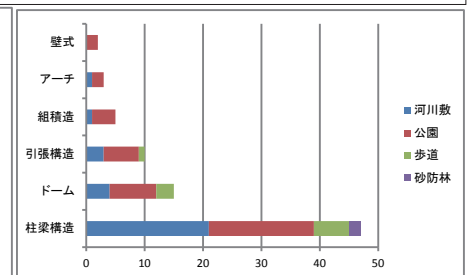


図 16 構造別敷地用途割合

表 6 都道府県からみた形状の場所性

形状	特徴
片流れ型	埼玉、東京、神奈川の首都圏に多くみられた。これはホームレスハウスが密集してあり、半層だけでなく、層に多く建てられているためであると考えられる。
陸屋根型	西日本では陸屋根が多い。これは橋の下または高架下の割合が多いからであると考えられる。
タープ型	沖縄と首都圏で多くみられる。これは別々の理由が考えられる。沖縄では台風風に備えてたためやすくなるためである。一方で、首都圏ではついでに公園清掃があるので、それに備えてたためやすくなる。

表 7 敷地用途からみた形状の場所性

敷地	特徴
河川敷	他の形状とは異なり、河川敷の割合が多いのは陸屋根型である。これは、陸屋根は他の形状と違って、雨のあたらない場所に建てられる場合が多いので、橋の下の割合が多いからである。
公園	屋外が多いので、雨仕舞いを変えられた形状の割合が多い。
歩道	陸屋根型が多いのは、高架下に建てられているからである。また、ドーム型やタープ型が多いのは、人通りが多い場所であるため、簡易的な作りになっているからであると考えられる。

表 8 敷地用途からみた構造の場所性

立地	特徴
河川敷	柱針構造のみ割合が高くなっている。河川敷には腰をすえて定住する覚悟で頑丈なものを作る傾向がみられる。